

身近な暮らしから「環境」について考える

ECOT

イーコト

分別って
意味あるの？

04

2022. 春号
spring

【写真】リサイクルセンターで回収された資源物

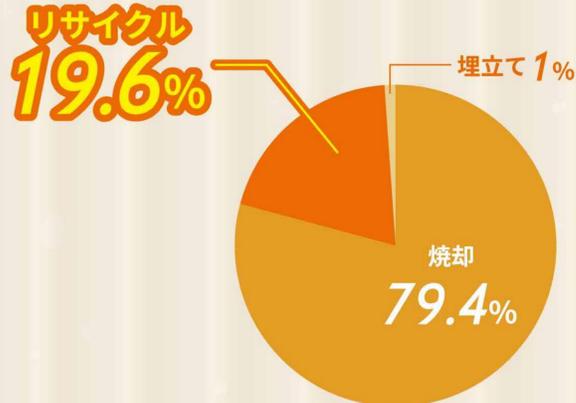
ごみが「未来への資源」に生まれ変わる!?

リサイクルって

リサイクルとは、使い終わったものをもう一度資源にもとし製品を作ることです。私たちが使い終わったものをごみと資源に正しく分ければ、もう一度資源にもどす仕組み(リサイクルルート)にのせることができ、ごみを燃やす量と埋め立てる量を減らすことができます。一方で、資源に加工するための費用がかかったり、エネルギーを消費するといった課題があり、環境にやさしいリサイクル技術の研究が進められています。

日本では、国土が狭く、埋立処分場に利用できる適地が限られていることなどから、従来から処分場に投入するごみの量を大幅に削減できる焼却処分が発達してきました。環境省が令和3年3月30日に発表した令和元年度の全国の一般廃棄物の排出及び処理状況等の調査結果によると、ごみ処分方法のうち最も多いのは焼却で79.4%、リサイクルが19.6%、埋め立てが1%となっています。福岡市のごみのリサイクル率は約30%。さまざまな分別収集が実施されているのに、ごみのリサイクル率が20～30%にとどまっているのはなぜでしょうか？今号は「リサイクル」をテーマに、ごみ問題の背景にはどんな課題があるのか、その課題解消に向けてどのような取り組み（イコト）があるのかをご紹介します。

日本のごみの処理方法



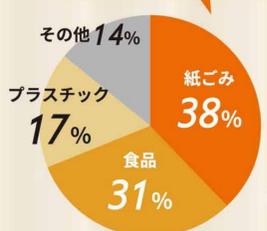
【出典】環境省ホームページ

●日本のリサイクル率はどうすれば上がるのか

環境省の最新データ(令和元年)によると、焼却が約79%、リサイクルが約20%、埋め立てが約1%という状況です。この割合は10年前とほとんど変わっていません(=リサイクルが全然伸びていない)。

焼却処理された廃棄物の内訳をみると、全国では紙ごみが約38%、プラスチックが約31%、厨芥(食品残渣等)が約31%、プラごみが約17%であり、福岡市でもほぼ同じ割合になっています。紙ごみやプラごみが資源化へとまわれれば、リサイクル率は大幅にアップします。

日本の焼却ごみの内訳



●リサイクルの歴史

日本のリサイクルの歴史は長く、奈良時代、平安時代には再生紙が、江戸時代には古紙や古着はもちろん、こわれた傘(かさ)の骨やホウキ、さらには燃えたあとの「灰」まで回収され、利用されていました。明治時代、大正時代になると、古着や古布のリサイクルが産業的にも発展してきます。そして、現代では、空き缶や空きびんをはじめ、アルミや布、紙など色々な物が再利用されるようになりました。日本には、古くから、ものを大切に最後まで使う心が根付いているのです。

日本のリサイクル率約20%!?

●リサイクルには2つの種類がある

リサイクルには、ケミカルリサイクルとマテリアルリサイクルの2つの手法があります。

ケミカルリサイクル: 使用済みの物を化学的に処理し、他の物に変えて再利用する方法です。例) ●廃プラスチックを油に戻す ●生ごみからバイオガス、廃食用油から石鹸を作る

マテリアルリサイクル: 廃棄物を利用しやすいように処理し、新しい原料として再利用する方法です。例) ●アルミ缶を溶かしてアルミ塊を作る ●古紙を溶かして再生紙にする

福岡市で回収し、リサイクルしているもの

- 古紙(新聞紙・段ボール・雑がみ) ●紙バック ●飲料の空き缶(アルミ缶・スチール缶) ●空きびん ●ペットボトル ●食品トレイ(白色のみ) ●蛍光管(直管・環型・電球型) ●乾電池 ●小型充電式電池 ●水銀体温計・水銀温度計・水銀血圧計 ●生ごみ堆肥 など

TOPICS

「アップサイクル」とは

SDGs(持続可能な開発目標)が世界の主要な行動目標の一つになった今、資源の有効活用の意識が高まっています。これまでの資源の主な有効活用は3R(リサイクル、リユース、リデュース)でしたが、最近注目が集まっているのが「アップサイクル」です。そのままではごみになってしまうものの本来の形や特徴を活かしながら付加価値を加えて商品化などすることをさしています。



例えば...

- 履かなくなったジーンズから作ったデニムバッグ
- トラックの帆布やシートベルトを使ったリュック
- 眠っている着物の帯から生まれたサンダル

※臨海3Rステーションで行われている「ネクタイから小物作り」などのものづくり講座も、アップサイクルの取り組みのひとつです。

TOPICS

「リサイクルマーク」をチェックしよう

リサイクルされた原料で作っていることを示すマークなどを確認し、環境負荷が少ない商品を積極的に選ぶことで、石油資源の節約や環境保全に協力することができます。



PETボトルリサイクル推奨マーク: 使用済みPETボトルのリサイクル品を使用した表品に表示。



グリーンマーク: 古紙利用商品に表示。原料の古紙の規定の割合以上に利用していることを示す。



牛乳パック再利用マーク: 使用済み紙バック(牛乳パック等)を原料として使用した表品に表示。



エコマーク: 「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品に表示。



再生紙使用マーク: 古紙利用商品に表示。このマークは古紙パルプ配合率100%再生紙を使用していることを示す。

40%だった古紙回収率は、今では84.9%!!

●家庭から気軽に紙リサイクル!

紙の原料であるパルプは、元をたどれば「木材」です。紙をリサイクルすることは、捨てられる紙ごみの量を減らすだけでなく、紙を作るために新たに投入される木材の量を抑制することにもつながります。日本では、古紙を回収し、再生利用する循環型の仕組みが確立しています。生活に身近で取り組みやすい紙リサイクルで、森林資源の持続可能な利用に貢献しませんか。

●古紙回収が進むと期待できる3つの「イコト」

01 ごみが減る: 1980年代は燃えるごみの中に紙ごみが半数近く入っていました。ごみ焼却場は紙ごみでいっぱいになり、大きな問題でした。そこで自治体、家庭、企業などが協力し、紙リサイクルを進めてきました。今では古紙がきちんと回収され、ごみを減らすことに役立っています。1970年代初頭に40%弱だった古紙回収率は、今では集団回収・行政の資源回収の拡大等を経て、なんと84.9%となっています。

02 資源が増える: 古紙を回収しパルプにすることで、資源(原料)として生まれ変わります。それを材料にして、さまざまな製品が作られます。

03 エネルギーを使う量が少なくなる: 古紙を使うと木から紙を作る場合に比べ、ほとんどが輸入に頼っているパルプ原料の木材輸送が必要なくなるほか、製造工程が少なくなるため使われる全エネルギー量は少なくなります。



明日からできる Activity

子どもにどう伝える?

6歳になる娘はごみはごみ箱に、はさすがに理解しているものの、その行き先を選ぶ「分別」がちょっと難しい。「どのごみ箱に入れる?」と毎回のように聞かれます。紙・プラスチック・金属の違いは知っているし、資源ごみを出すことも知ってはいても、いざ自分がどうするかを考えるのは面倒なのかもしれません。ごみの種類ごとにごみ箱を分けているのは集めて違うものに生まれ変わらせるから、という説明をしましたが、手応えのないまま終了。苦笑。大人でも迷うくらいなのでそう簡単にはいかないと分かってはいますが、なぜ分別が必要なのかも知っていてほしい。このくらいの年齢の子どもにもわかりやすく腑に落ちる、伝える方法を模索中です...



解決するために、こんなイコトが...

01 イコト カラフルスムージー (海と日本プロジェクト × 株式会社ふくれん)

今すぐ誰にでもできる環境活動「ごみ分別」に着目したスムージー。「飲んだら分別しよう!」をテーマに、回収したバックはトイレトペーパーにリサイクルされます。ちなみに包材は、テトラパック社のリサイクル便の紙バック、ストローはバイオマスプラスチックを25%配合したものを採用。原料は、地産地消を意識して福岡県産・九州産をメインに「JA全農ふくれん」の規格外野菜や、(株)ふくれんのジュース製造時に出るおからや人参パルプを使用。資源の再利用に努めています。2022年はさらにパワーアップする予定です。ますます注目のプロダクトです!



02 イコト ブルーシードバッグ (BRIDGE KUMAMOTO)

「ブルーシートを、ブルーシード(復興のたね)に。」平成28年熊本地震によって、甚大な被害を受けた家屋の応急処置で、被災地域などで利用されたブルーシートを回収・洗浄・縫製して、トートバッグにリメイクするプロジェクトです。復興関連のイベントやオンラインで販売し、売上の一部は被災地に寄付されます。熊本地震を象徴し、ネガティブな印象を持たれていた、屋根にかけられたブルーシートを「復興のたね」と意味づけて、前向きで明るいものへと転換させる狙いもあります。縫製は被災地の大分県竹田市の縫製工場や、熊本県内の就労継続支援事業所で行っており、売上金のほとんどが熊本・大分に流れるようになっています。



イーコトブックス

なぜ?から調べる ごみと環境

④リサイクル施設

びん、アルミ缶、スチール缶、ペットボトルなどの製造と回収、分別した資源ごみがどのような方法でリサイクルされているかについて学びを深めることができる一冊です。リサイクルの過程を学ぶことで、「ものの一生」がわかり、物を大切に作る心が育ちます。



お知らせ
臨海3Rステーションでは、環境に関する書籍の貸し出しを行っています。詳しくは、事務局スタッフまでお尋ねください。

【監修】森口祐一 【出版社】学研プラス 【発行年】2021年2月
【ISBN-10】4055013477 【定価】3,300円 【ページ数】48

生ごみもリサイクル

堆肥作りで生ごみをリサイクルしよう!

生ごみから堆肥を作り、栄養を凝縮した堆肥で野菜や花を育てるのは、家庭でできるリサイクルです。

臨海3Rステーションでは段ボールコンポスト講座や作った堆肥を活かすプランター菜園講座などを実施しています。

また、家庭で使い切れずに余った生ごみ堆肥は、区役所など市内9か所に設置している資源物回収ボックスで回収し、臨海3Rステーションのエコ農園での野菜作りなどに活用しています。

生ごみ堆肥回収拠点

- 東区役所 ●城南区役所
- 早良区役所 ●西区役所
- 入部出張所 ●西部出張所
- 中央体育館
- 博多市民センター
- 南市民センター



リンカイプラス —— 臨海でレッツリユース!

臨海3Rステーションではこんなものが回収できます!

臨海3Rステーションでは、まだ捨てるにはもったいない! そんな衣類・雑貨・本・家具などの持ち込みを受け付けています。持ち込まれたものは展示し、提供しています。不用になったものを他の人に使ってもらうことはリユースの第一歩です。お気軽にお問合せください。

持ち込みできるもの

- 衣類...洗濯しているもの。穴あき・ほつれ・毛玉のないもの。
- 雑貨...新品または新品同様の食器・バッグ・靴・おもちゃなど。
- 家具...ダイニングテーブル・本棚・椅子など。
※電化製品は受付できません。
- 本...平成以降に発行された単行本、コミックなど。
※雑誌・百科事典は受付できません。

壊れてしまったものを、そのまま捨てていませんか?

臨海3Rステーションでは大切なものを修理して、再び使うためのお手伝いとして、毎月リペアサービスを行っています。「木製のまな板削り」「おもちゃの病院(子ども向けおもちゃ対象)」「傘の修理」などを無料で受け付けています。「これ直るかな～」というおもちゃや傘などがありましたら、ぜひお気軽にご相談ください。



▲傘の修理

臨海3Rステーションの講座・イベント情報はこちらから

臨海3Rステーションでは、身近なエコに関する講座やイベントを紹介する「RINKAI NEWS」を毎月発行しています。プリントでの配布の他、公式WEBサイトでも公開しています。ぜひチェックしてみてください!

赤号と青号を交互に発行!

RINKAI NEWS

最新号はこちらから!



福岡市 Fukuoka City Seaside 3R Station
臨海3Rステーション

〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13番42号

《WEB》 <https://rinkai3r-station.com/>

《TEL》 092-642-4641 《FAX》 092-642-4598

《休館日》 月曜日(祝日の場合は次の平日)、年末年始

《開館時間》 10:00~17:00

《アクセス》 ●地下鉄「貝塚」より徒歩約20分

●西鉄バス「リサイクルプラザ前」より徒歩約1分

●西鉄バス「高須磨町」より徒歩約10分

